

中学校英語 全国平均 I R T スコアを 34 ポイント上回る！ ～全国学力・学習状況調査結果 横浜独自の「英語教育」の成果が明らかに～

令和8年4月20日～5月29日に横浜市立小学校6年生（約27,000人）、中学校3年生（約22,000人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果の概要をお知らせします。

◎ 各教科の調査結果から見る横浜市の状況

◆ 全国の平均正答率・平均 I R T スコアとの比較

- ・中学校英語においては、全国の平均 I R T スコアと比べ、**34 ポイント高い状況でした。**
※中学校英語は、I R T（項目反応理論）に基づき 500 を基準に算出した I R T スコアで結果を表示しています。
- ・国語、算数・数学においては、全国の平均正答率と比べ、**1～3 ポイント高い状況でした。**

【平均正答率（％）（国語、算数・数学）平均 I R T スコア（中学校英語）】

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
横浜市	62	59	65	60
全国との差	+1	+3	+1	+3
神奈川県	61	58	65	59
全国	61	56	64	57

中学校 英語
533
+34
525
499

I R T スコア

※全国の平均正答率については、四捨五入し整数値に直して表しています。

※横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率・平均 I R T スコアです。

【I R T（項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。

【I R T スコアとは】

I R T に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。各教科に C B T ・ I R T を導入する年の全国平均 500 を基準値とし、経年比較が可能な形で算出されます。

◎ 英語の調査結果に関する状況と分析

中学校英語調査に I R T が導入されたため、英語について、調査問題別正答率、横浜ラウンド制の取組、質問調査の観点から分析します。

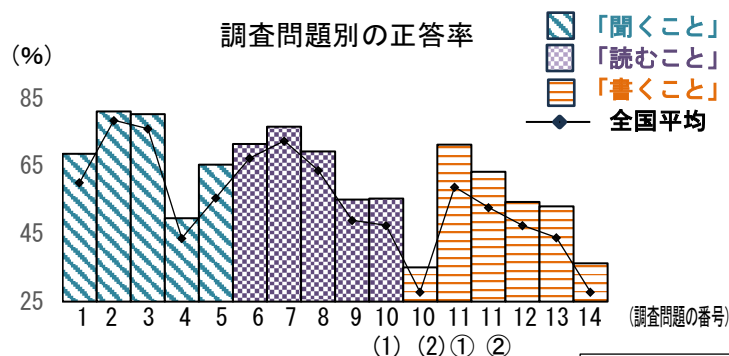
本市ではこれまで、横浜ラウンド制（※詳細は裏面に掲載）の導入や A L T（外国語指導助手）の小・中学校全校配置、小学校1年生からの外国語活動の実施など、先進的な英語教育を推進してきました。また、全国トップレベルの英語担当教師（「令和7年度英語教育実施状況調査 中学校」より）と A L T が連携し、英語によるコミュニケーション活動の充実を通じて、児童生徒の英語で自分の考えや気持ちを伝え合う力の向上に取り組んできました。

今後は、これまでの英語教育の取組を基盤として、A I ドリルの活用を推進することで、児童生徒が多様な学習手段の中から自ら学び方を選択できる学習環境の充実を図ってまいります。また、オンラインによる A L T との授業や、実社会で英語を使って交流する機会の拡充などを通じて、英語によるコミュニケーション力のさらなる向上を目指してまいります。

◆ 中学校英語の調査問題別の正答率

右のグラフは英語の調査問題別の正答率を表したグラフです。いずれも全国の正答率を上回っています。さらに領域別（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）で見ると、「聞くこと」は3～10ポイント、「読むこと」は4～8ポイント、「書くこと」は7～12ポイント高い結果でした。

※「話すこと」の結果は9月以降に文部科学省より提供されます。



裏面あり



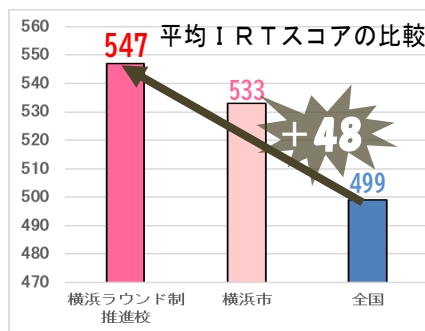
GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

◆横浜ラウンド制の取組

横浜ラウンド制とは、市立南高等学校附属中学校で開発された英語指導法を基にした学習方法です。1冊の教科書を用いて、切り口や学び方を変えながら繰り返し活用し、英語力の向上を目指しています。

今回の調査においては、令和6年度に横浜ラウンド制実践推進校だった学校において、今回の調査での平均IRTスコアが、横浜市全体や全国の平均を上回っており（全国平均+48ポイント）、横浜ラウンド制の効果が確認できる結果となりました。



広報よこはま・なか区版 2023年3月号P.6,7(参照)



https://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kusei/koho/koho_naka/naika2023_files/0079_20230227.pdf

◆児童生徒質問・学校質問調査から見てきたこと

(1) 児童質問調査・生徒質問調査における、英語に対する意識

【児童質問・生徒質問（小・中学校）】英語の勉強は好きですか。

1. 当てはまる 2. どちらかという、当てはまる 3. 当てはまらない 4. どちらかという、当てはまらない

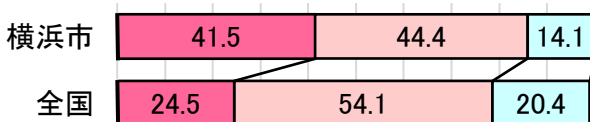
	小学校		中学校	
	当てはまる	どちらかという、当てはまる	当てはまる	どちらかという、当てはまる
横浜市 (%)	39	28	28	27
全国との差	+1	-1	+3	0
全国 (%)	38	29	25	27

小学校では、横浜市では約7割の児童が肯定的に回答しており、全国とほぼ同等でした。中学校では、肯定的な回答が全国平均を3ポイント上回る状況でした。

(2) 学校質問調査・生徒質問調査における、授業での取組及びその成果

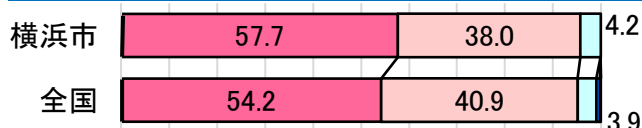
【学校質問】（中学校）英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動を行いましたか。

1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行わなかった 4. 全く行わなかった



【学校質問】（中学校）英語担当教員とALT（外国語指導助手）との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか。

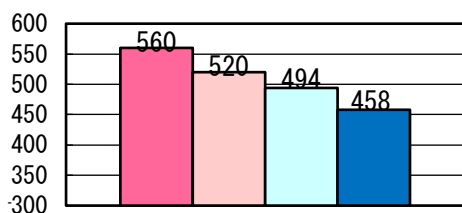
1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない



【生徒質問】授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったり（中学校）する活動が行われていましたか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない

（平均IRTスコア）



学校質問調査からは、横浜市では全国と比べて、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動やALTと連携した授業を積極的に実施している状況が見られます。また、生徒同士で意見を述べ合う活動についての生徒質問調査において、肯定的に回答している生徒ほど、平均IRTスコアが高い傾向が見られました。

◎各教科で顕著な結果が見られた設問

※全国との平均正答率との差が顕著なものを表記しています。

小・国語	「目的に応じて、必要な情報を見付けることができる」が約5ポイント高い。
小・算数	「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる」が約7ポイント高い。
中・国語	「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる」が約3ポイント高い。
中・数学	「2直線が平行になるための条件を理解している」が約8ポイント高い。

お問合せ先

学校経営支援課 教育イノベーション担当課長 加藤 Tel 045-671-3732



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷